

令和2年度 初任者研修に係る校外研修「授業参観」

新大分スタンダードについて



令和2年10月
大分県教育庁佐伯教育事務所

本研修の目的

＜「授業参観」研修の目的＞

◇授業づくりに関する授業参観，研究協議を通して，具体的な授業の進め方や改善方策について理解を深め，**実践的指導力の向上**を図る。

その中で・・・

「**習熟の程度に応じた指導**」に係る協議等を通して、「**新大分スタンダード**」に対する**理解を一層深め**，組織的な**授業改善**を推進することにより，管内児童生徒の**学力の向上**に資する。

本資料でお伝えしたいこと

1. 大分県が目指している授業について

2. 「新大分スタンダード」に基づく授業改善について

大分県が目指している授業

「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ

(令和2年3月大分県教育委員会)

第4章 学校に求められる取組

2 授業改善の徹底

① 小・中学校で進める授業改善

授業の質の向上に向けて

<学校に求められる取組のポイント>

◆「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上

- 主体的・対話的で深い学びの実現を図るため、「新大分スタンダード」に基づいた授業を、単元(題材)のまとまりを見通して1単位時間の「ねらい」や評価規準の適切さ等を確認しながら実施する必要がある。

「新大分スタンダード」とは？

新大分スタンダードは、

生きて働く「知識・技能」の習得に加え、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力」の涵養を目指す授業改善の視点

新学習指導要領で求められている主体的・対話的で深い学びの視点による授業改善をより分かりやすく、具体化したもの

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」
(令和2年3月大分県教育委員会)より



新大分スタンダードのすすめ

新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- *学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- *学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- *追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

- *各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H31.3月版

◆こちらも出ています。目を通していただけますか？

目標達成に向けた組織的な授業改善の推進

各学校では、「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き（平成27年3月）を踏まえた組織的な授業改善が進んできました。全教員が児童生徒の状況や「授業改善の5点セット」を共通理解し、PDCAサイクルを学校全体と個々の教員で確実に回すことにより、一層の充実を図りましょう。



【組織的な授業改善のポイント】取組内容・取組指標に基づく共通実践による一人一人の授業力向上

- 授業改善5点セットの【取組内容】【取組指標】は、個々の教員が「どのような授業改善の取組を行うのか」を明確にしたもので、これに基づき個々の教員が授業改善を進めることは、学校全体の授業改善のPDCAサイクルではDOに当たります。
- 個々の教員が学校全体の改善の方向性を理解し、【取組内容】【取組指標】に基づいて、図中赤色の小さいPDCAサイクルを短期に回すことが、まず重要なことです。その上で、それぞれの取組から得られた成果や課題、困り等について学年部会や教科部会等で情報交換等を行いながら、組織的解決や【取組内容】の質を向上させることが、学校全体の授業改善の充実につながります。



…… このパンフレットについての問合せ先 ……

大分市前内町3丁目10番1号

大分県教育庁 義務教育課

TEL:097-506-5534 FAX:097-506-1795

新大分スタンダードのすすめ

「新大分スタンダード」で主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成する
ワンランク上の授業を目指して

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

- ＊学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- ＊学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- ＊追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

2 板書の構造化

＊思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

3 習熟の程度に応じた指導

- ＊「**具体的な評価標準**」に基づく確かな見取り
- ＊「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる
「学びに向かう学習集団」

4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開

- ＊各教科等の**場外・考え方を働かせて**展開する「課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現・交流→振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しのなかで行われる
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

「新大分スタンダード」による授業改善は、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点による授業改善と重なります。**

○主体的・対話的で深い学びについて、中央教育審議会審議(0428.12)には、「単元や題材のまとまりの中で、例えば主体的に学習を共通し振り返る場面をどこに設定するか、グループなどで対話する場面をどこに設定するか、学びの深まりを作り出すために、手紙が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか」といった観点で実践されていくことが求められる」とあります。
「新大分スタンダード」においても、単元や題材等を問題解決的な展開にするよう改善を求めています。

「新大分スタンダード」で目指す授業

- (1) 単元や題材の「むらい」に即した「めあて」の設定では、児童生徒自身が学習の見通しをもち、意欲を高めることを重視しています。
- (2) 「めあて」に即した「振り返り」を設定することで、本時の学びの成果等を実感し、学んだこと等を次の学びにつなげるようになることを重視しています。
- (3) 主体的・対話的で深い学びを創造する学習展開では、知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造などを実現することを重視しています。

平成31年3月(第3版)

大分県教育委員会

◆こちらにも出ています。目を通していただけますか？

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先習の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、**自己の考えを広げ深める「対話的な学び」**が実現できているか。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を発見だして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。
- (H28.12.21 中央教育審議会答申から)

「目標達成に向けた組織的な授業改善」推進手引き」の考え方を活用し、「新大分スタンダード」の視点からの授業改善をPDCAサイクルののせて組織的に進めましょう。

【授業づくりのポイント1】「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化

- 【めあて】** 付けたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」。単元や題材の「めあて」を提示することもある。
- 【課題】** その時間に解決すべき事柄。「なぜ～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」など、疑問形で示すことが多い。
- 【まとめ】** 本時の課題に対する答え・結論に当たる。
- 【振り返り】** めあてに対する振り返り。学びの成果を実感させ、学んだことや感想・問題意識等が次につけられるようポイントを設定することが望ましい。
- ＊「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つが毎時間の授業で必要だというわけではありません。提示の順序やタイミングも授業によって変化します。本時のねらい等に応じ、児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定することが重要です。
 - ＊板書については、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を位置付けるとともに、ノートと一体化させ、何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が常に振り返ることができるように心がけましょう。

【授業づくりのポイント2】習熟の程度に応じた指導の第一歩は評価規準の具体化

- 単元や題材の評価規準
「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料（国立教育政策研究所）を参考に作成します。（2020年度以降、新しい参考資料が示されます。）※ <http://www.nier.go.jp/kahatsuu/shidousaiyou.html>
- 本時の評価規準
・単元や題材の評価規準、評価計画に基づき、本時の教材・学習活動から、指導者が「おおむね満足できる状況」を設定します。
・その際、「Bおおむね満足できる状況」と「C努力を要する状況」との区別ができる場所まで具体化して設定することが重要です。
- 本時の中で評価し、本時の中で「C努力を要する状況」の児童生徒に手立てを渡し、全ての児童生徒を「Bおおむね満足できる状況」まで到達させることを目指します。
・場に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫を検討します。



【授業づくりのポイント3】問題解決的な展開の授業の類型を基にした指導計画を

- 教科等の特質や教材によって、単元や題材の展開全体が問題解決的な場合と、1単位時間などのまとまりで問題解決的な展開になる場合とがあります。
- 問題解決的な展開には、どのような段階があるのでしょうか。

教育学的授業類型	
1	教師主導の講義・実習・習熟型授業
2	教師主導の課題解決学習 (学習課題・追究方法とも教師が)
3	児童生徒主体の課題解決学習 (学習課題は教師・追究方法は児童生徒が)
4	問題解決学習 (学習問題・追究方法とも児童生徒が)

類型は、藤村裕一氏(専門教育大学大学院)による



生徒指導の3機能 **自己決定** **自己存在** **共感的な人間関係**

- ・「新大分スタンダード」で求めている生徒指導の3機能を基にした問題解決的な展開の授業は、左の類型で言えば2～4です。ただし、類型2のみでは、問題発見能力や問題解決能力等は育成できません。単元や題材のまとまりを見通し、習得・活用・探究という学びの過程の中で、意図的・計画的に類型1～4を適切に選択し、設定することが必要です。
- ・類型1の授業においても、講義一辺倒でなく、児童生徒の主体性を引き出し、協働的な学習活動を設定するなどの工夫が求められます。
- ・単元や題材のまとまりを見通し、児童生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかなどを考え、教科等の特質を踏まえ習得すべき事柄を明確にし、それらの確実な習得を図ることができるよう構想しましょう。

【授業づくりのポイント4】すっきり筋の通った指導案で授業の質を上げる

指導案を書いたら、次の視点で点検したり、同僚に意見を求めたりしましょう。

(1) 単元（題材）の指導計画

- 付けたい力は明確か。
各教科等の特質を踏まえた単元（題材）の目標、評価規準や評価場面は適切か。
- 学習展開（プロセス）は適切か。
設定した課題を、設定した展開（学習活動）で解決（追究・探究）していけば、付けたい力が育成できるように単元（題材）が設計されているか。
- 教材や言語活動の解釈は適切か。
「付けたい力」と「教材」、「課題」、「単元（題材）」の中心となる学習活動（言語活動）は連動しているか。 ※音楽、図画工作、美術、家庭、技術・家庭等では、「題材」として計画します。
※道徳科では、「主題」として計画します。
- 場に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫は適切か。

(2) 本時案

- 本時の「ねらい」は適切かつ明確か。
○本時の評価規準は、「ねらい」と対応しているか、それを使って実際に評価ができるか。
○本時の「ねらい」に則した「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」が適切に設定されているか。

【ねらいの書き方の例】

- ＊A 学習内容（～を、～について）
- B 学習活動（○○を通して、○○でまとめて、○○と比べて）
- C 育成を目指す資質・能力（△△できるようにする、△△に気付くようにする、△△を高める等）
- ＊A～Cの3つの要素を入れる。
- ＊Bにおいては、「順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的に見る・多角的に見る、理由付ける、見直す、具体化する、抽象化する、構造化する」等の「考えるための技法」を想起する。

1時間完結型

1 1時間完結型

主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」

*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」

*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

1時間完結型の授業とは、どのような授業？

⇒単元構想に基づいたその1単位時間のねらいが達成される授業

⇒児童生徒にとっては、この時間は何について考えればよいのか、解決のために何をするのか、答えや結論は何か等、1時間(1単位時間)の学びが明確で、「分かる・できる」を実感できる授業

「新大分スタンダードに基づく授業改善Q&A」
(令和2年3月大分県教育委員会)より

板書の構造化

2 板書の構造化

*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

板書の構造化とは、ということ？

⇒めあてや課題、児童生徒の考え、ねらいに関わるキーワード等が児童生徒の分かるように位置付けられ、児童生徒の深い学びにつながるような板書

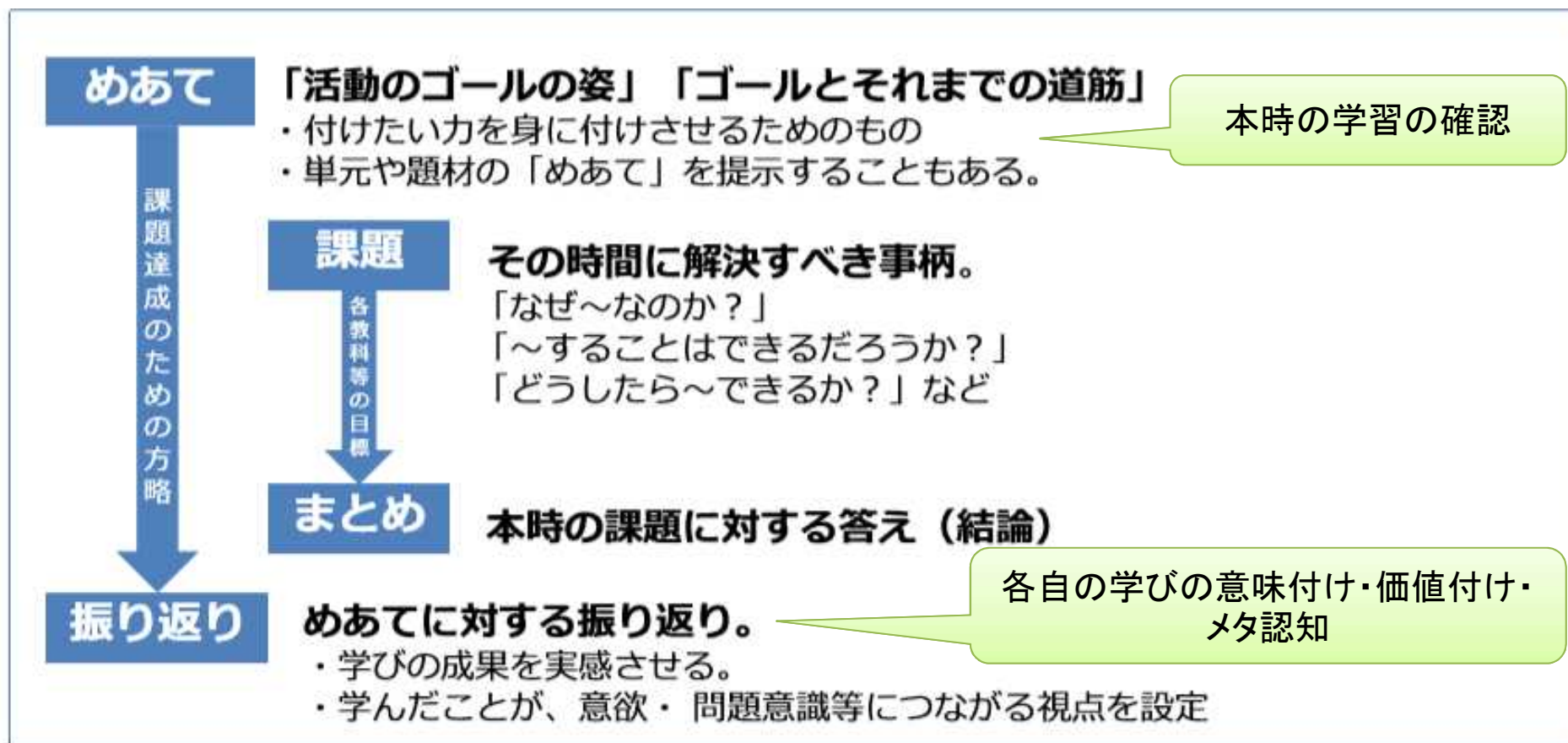


- 児童生徒が何を学ぶのかをしっかりとつかめる板書
- 学習内容の概要を振り返ることができる板書
- 授業のねらいに沿った児童生徒の指導の流れが見える板書

※板書計画を作成する際の留意点

- どこに何が書かれているのか、児童生徒が見て分かるようにする。
- 児童生徒の発言や考え方を、どこにどの程度書いていくのか、計画を立てておく。そのためには、めあてや課題に対する発言や考えを想定しておくことが必要

「めあて・課題・まとめ・振り返り」の適切な設定と板書の構造化



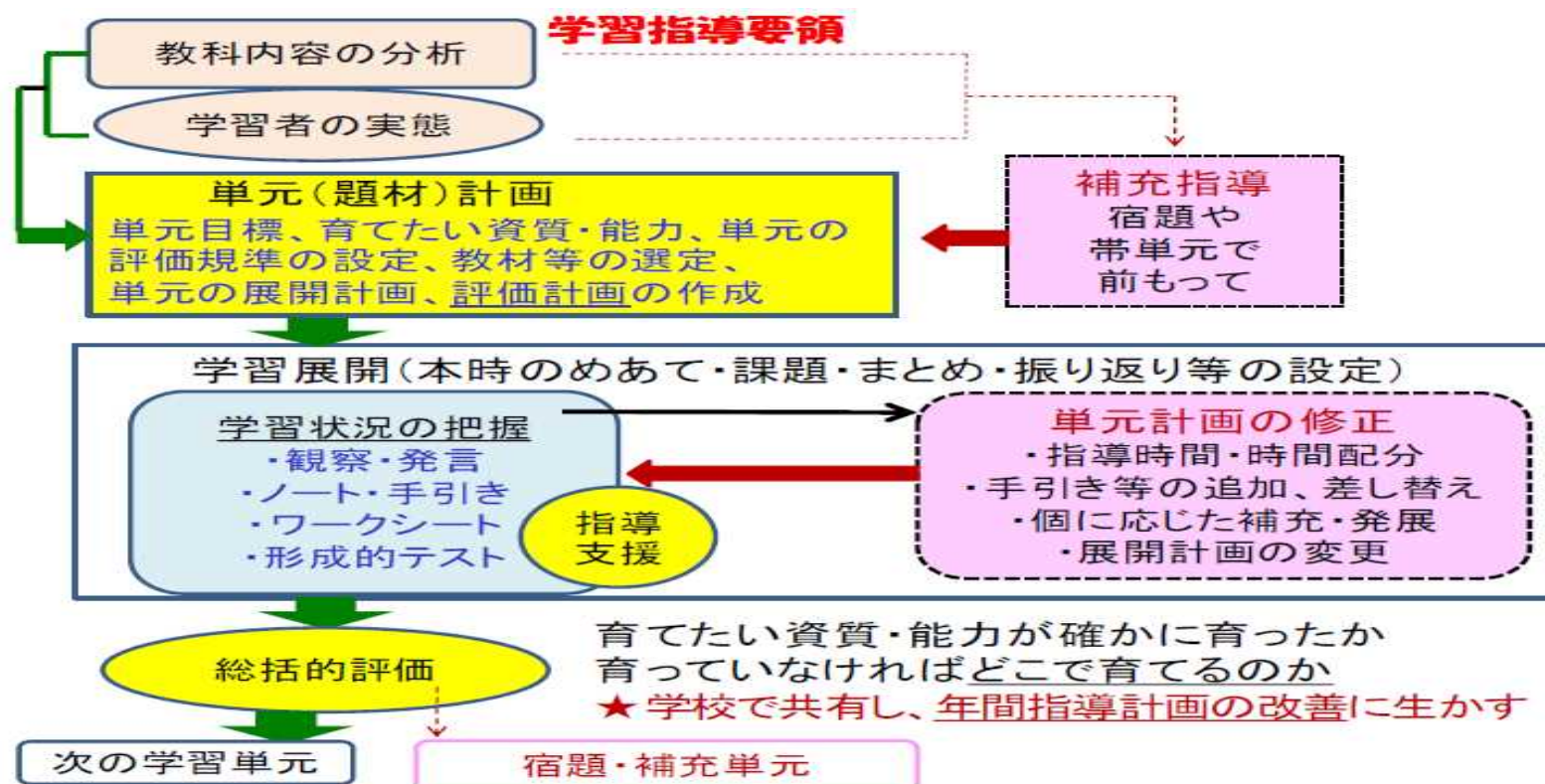
- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」は、提示の順序やタイミングも授業によって変化
→児童生徒の思考の流れがすっきりとなるよう設定するもの
- * 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」等を板書に位置付ける。
→何をどのように学んでいるか等を、児童生徒が振り返ることができる配慮

習熟の程度に応じた指導

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

指導と評価の一体化のイメージ



評価規準の具体化

単元の評価規準

- ◆小学校:「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ◆中学校(今年度まで):「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」
(いずれも国立教育政策研究所)を参考に作成



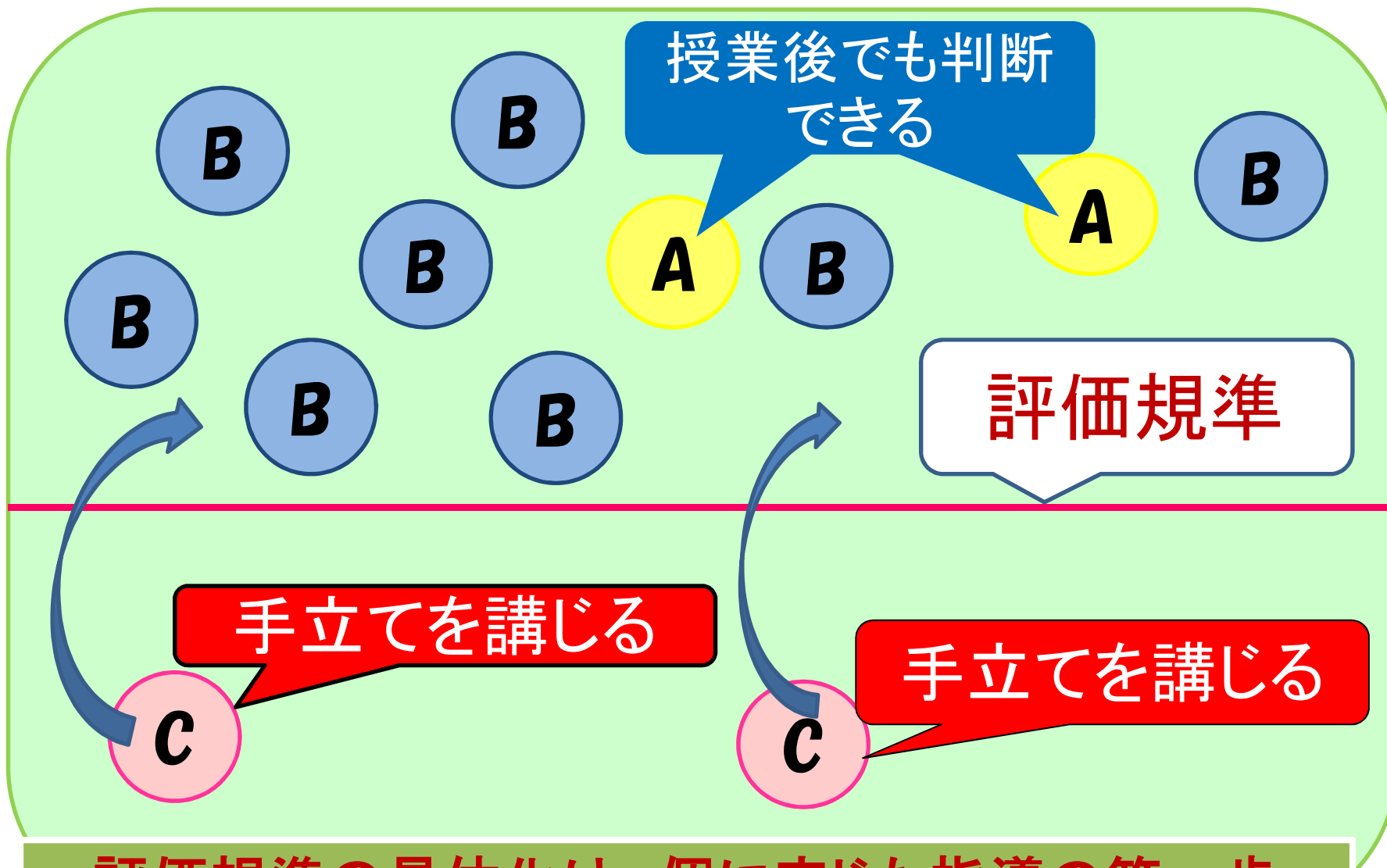
本時の評価規準

- ◇単元の評価規準、評価計画に基づいて、本時の教材・学習活動から、**指導者が「おおむね満足できる状況」を設定**
- ◇その際、「Bおおむね満足できる状況」と「C努力を要する状況」との**区別ができるところまで具体化**して設定する

付きたい力の
明確化

※本時の中で評価し、本時の中で「C」の状況の児童生徒に手立てを講じ、全ての児童生徒を「B」の状況まで到達させることを目指す

評価規準の具体化



評価規準の具体化は、個に応じた指導の第一歩

学習評価のポイント

①「具体的なゴール」を描くために

○求める成果物の**モデル**を自分で作成してみる

- ・本時、本単元で評価するのはどの部分？
- ・どの程度まで求める？

○「まとめ」「振り返り」の文章を自分で書いてみる

- ・身に付けさせたい学習用語や期待する**振り返り**を想定する

振り返る視点を
あらかじめ提示する

②「個々の学習状況を把握する」ために

○まずは児童理解

○思考を可視化する手だて

③評価に関するエラーを自覚する

(例)

○レポートの内容よりもまとめ方を評価してしまう

○話し合いの内容ではなく態度を評価してしまう

○グループの成果物だけで個々の学習状況を見ようとする 等

「生徒指導の3機能」とは

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ

2 自己存在感を与える

個々の活躍の場(発表・発信)・成就感
個に応じた指導

3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い、励まし合い
新しい考えを創造

「生徒指導の3機能」を生かした授業づくり

生徒指導の三つの機能	このような授業(1単位時間あるいは単元)
自己決定の場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付け、それを追究し、自ら考え、判断し、表現する授業(問題解決的な授業の展開) ・「選択」「判断」のある授業 ・話し合いや交流の前に、まず、自分の考え方、感じ方をもって臨んでいる授業
自己存在感を与える場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が学ぶ楽しさや成就感を味わえる授業 ・学ぶ意義や価値、必要感のある課題が設定されている授業・・・学ぶ意欲を引き出す課題 ・目的が明確な学習活動 ・自分の考えや感じ方を書いたり話したりして、みんなの前に示す場面がある授業 ・学習の成果が実感できる振り返り活動がある授業
共感的人間関係を育む場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合い、学び合うことができる授業 ・友だちの考えや感じ方をまず、受容的に聞き取る(受け止める授業) ・話し合い等交流活動の中から新しい考え方が生まれ、話し合って良かった、交流して良かったと実感できる授業 ・もたれかかるのではなく、一人ではできないことを分担したり協力したりすることで成し遂げられる喜びを実感できる授業

問題解決的な展開の授業

単元または
1時間で

- ① 学ぶ意欲を引き出す **課題設定**
(考えてみたい・やってみみたい・やり甲斐がある)
- ② 課題解決のための **情報収集**
(資料検索、実験・観察、体験、話し合い等)
- ③ ②の **整理分析** (比較・分類・序列化・類推・関連付け等)
- ④ ③で考えたことや分かったことの **まとめ・発信・交流**
- ⑤ 学習の成果を **実感させる** 単元の **振り返り及び評価**

「新大分スタンダード」に基づく授業改善

「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートより

観察項目			
授業構想	①	教材研究	付きたい力を付ける方法や（学習活動）教材の解釈が適切である。
	②	評価規準	付きたい力に合った評価規準を設定している。
	③	問題解決的な展開	教科の特性に応じた問題解決的な展開である。
導入	④	めあて	本時のめあてが適切に示されている。
		課題	本時の課題が適切に設定されている。
展開	⑤	自己決定	児童生徒が自分なりの考えをもつことができている。
	⑥	共感的な人間関係	交流活動等を通して児童生徒が自分の考えを深化・拡充できている。
	⑦	自己存在感	児童生徒が自分なりに考えをまとめ、表現している。
	⑧	板書の構造化	児童生徒の思考を助けたり、深めたりするのに適した板書である。
	⑨	習熟の程度に応じた指導	児童の習熟の程度に応じて、適切な支援をしている。
終末	⑩	まとめ	課題を設定した場合はそれに対応した適切なまとめができている。
		振り返り	本時の振り返りの視点がめあてに対して適切である。

「新大分スタンダード」に基づく授業改善の推進

各教科等における資質・能力の確実な育成をめざして

一層の充実をお願いしたいこと

- 1 単元や題材の目標、評価規準を明確にし、単元構想に基づいた「本時」を構想すること
- 2 教科等の特質を踏まえた質の高い「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を設定すること
そのために、まず、育てたい資質・能力が確かに育つ学習活動を設定すること
→学習過程の質的改善
- 3 個に応じた指導の工夫、特別な配慮を必要とする児童生徒への指導の工夫をもって授業に臨むこと
→すべての児童生徒を「概ね満足できる状況」に